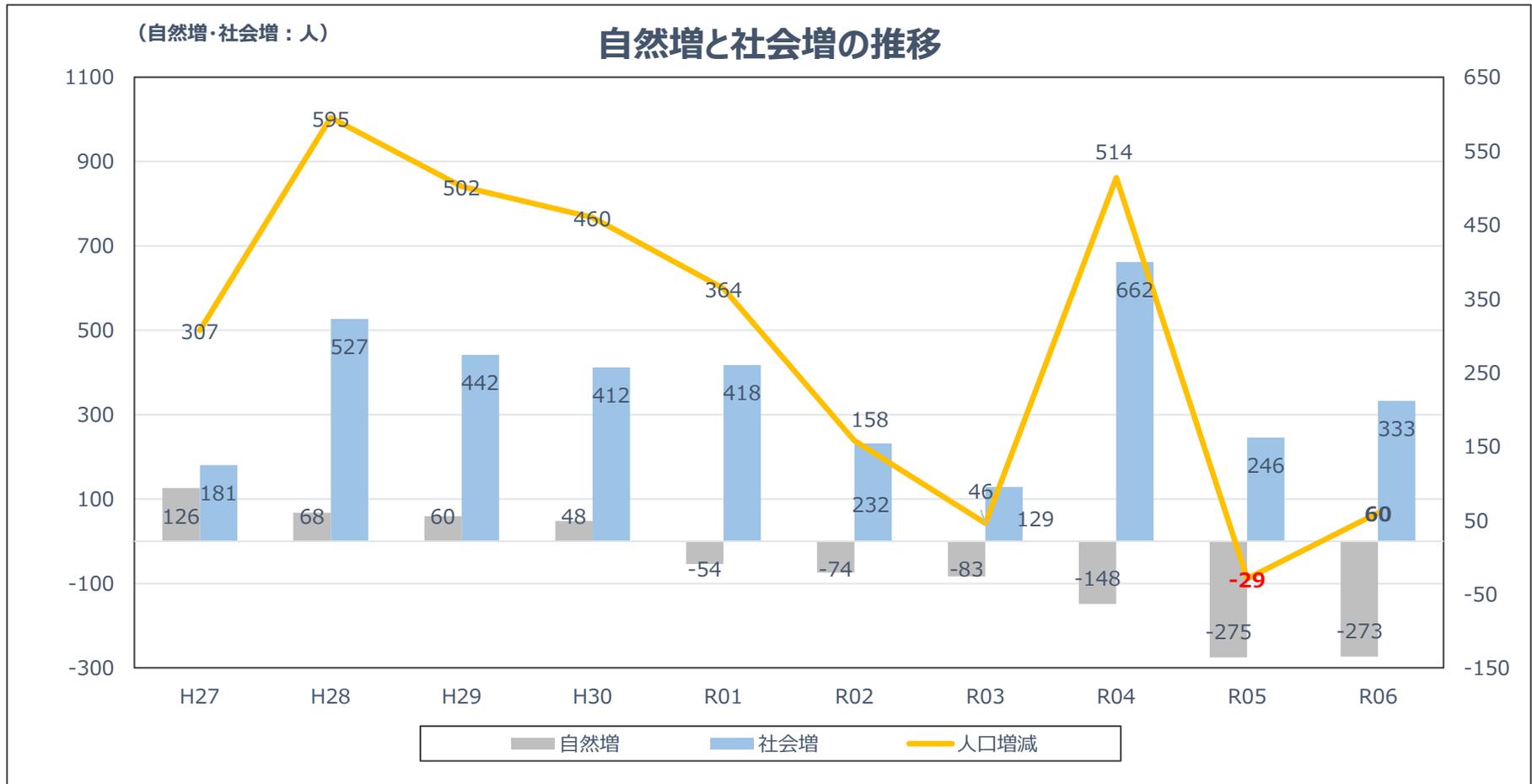
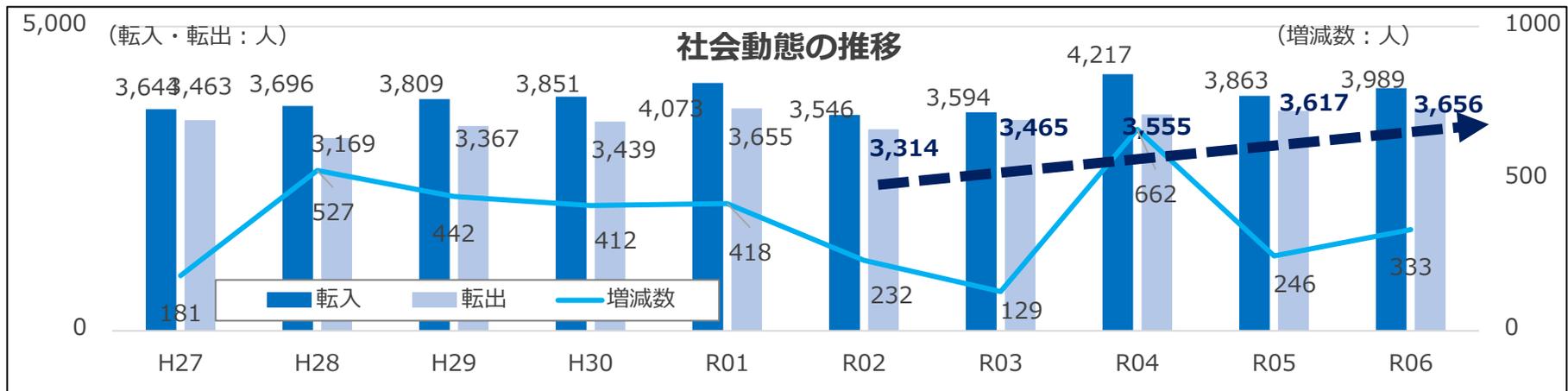
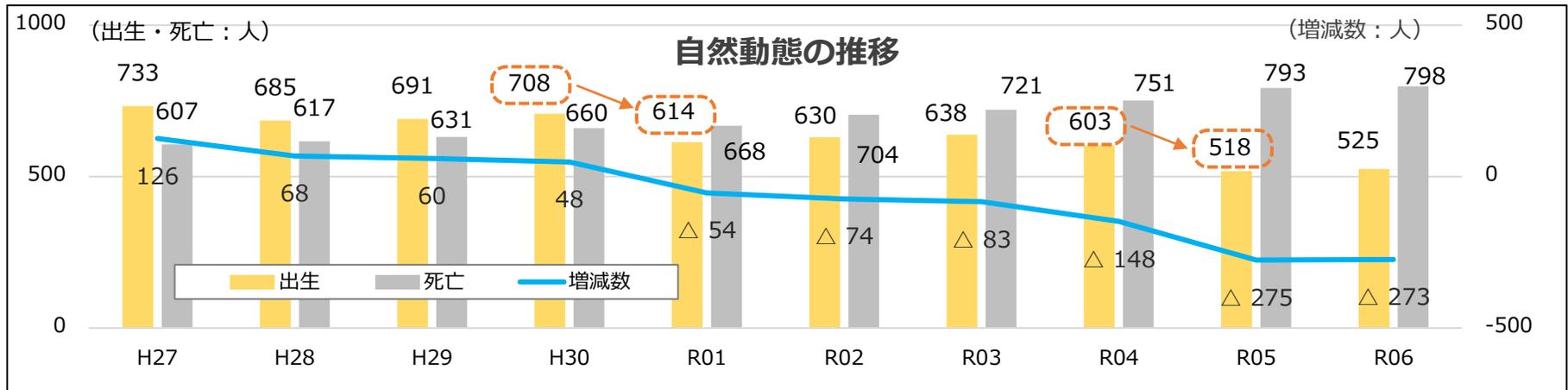


## 【議題外】鳥栖市における直近の人口動態について(参考)



**Point**

- ✓ 令和5年に初めて人口減となったが、令和6年に再び人口増に転じた
- ✓ 社会動態は増加傾向を維持しているが、自然動態は減少傾向である



**Point**

- ✓ 出生数は減少傾向で、特に令和元年、令和5年に大きく減少している
- ✓ 社会増は一貫して続いているものの、転出者数が増加傾向にある

## 年齢別社会動態のヒートマップ

単位：人

	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95歳以上
H26	9	42	16	22	-33	32	3	32	64	9	19	12	7	28	6	5	0	0	2	2
H27	4	19	-2	31	93	-33	-25	-16	-11	11	0	-1	-7	18	11	0	5	11	-5	3
H28	-32	12	-3	-16	62	44	40	68	19	29	11	21	46	23	18	13	14	14	5	1
H29	7	6	2	68	30	12	42	16	14	3	16	2	3	5	16	13	15	5	9	3
H30	24	15	28	44	42	42	44	56	4	27	13	-11	-7	6	3	-1	14	7	4	4
R01	-21	5	27	73	-22	26	19	59	34	-7	15	38	6	2	7	8	19	27	10	2
R02	3	19	11	56	13	-16	71	6	28	-29	8	18	11	7	6	7	12	13	8	4
R03	11	26	-2	-26	-76	73	35	73	7	1	29	23	1	7	-2	3	3	9	13	4
R04	-32	16	-1	18	216	77	51	34	18	35	6	25	23	14	26	12	4	6	6	1
R05	-28	7	6	-3	85	24	47	50	6	6	19	-3	-16	27	14	12	2	17	7	6

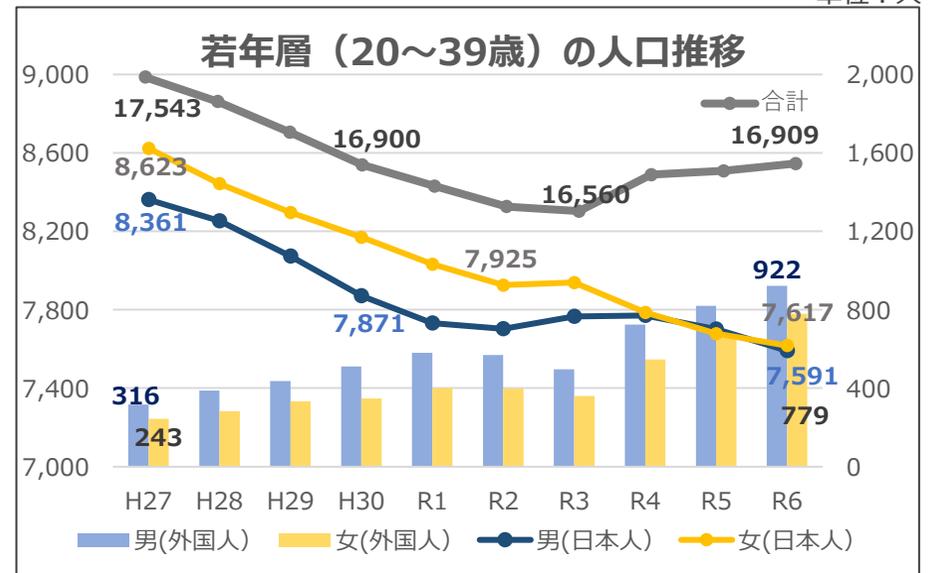
### Point

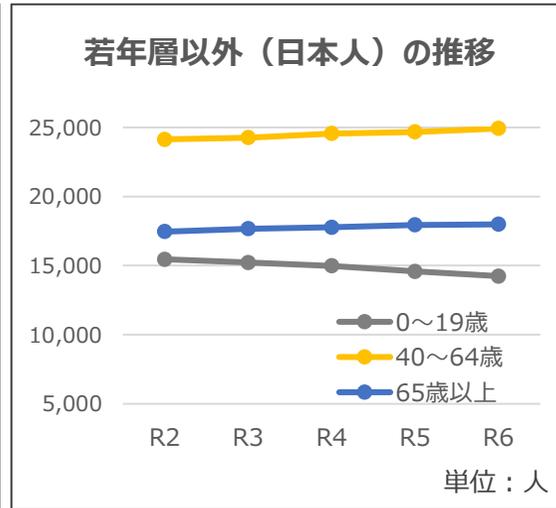
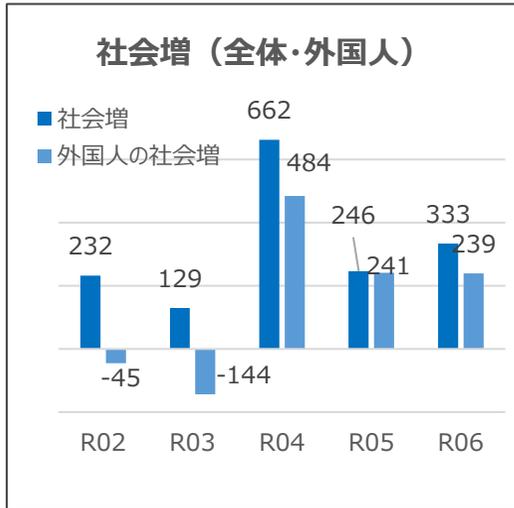
- ✓ 若年層は令和3年まで減少し、4年から増加傾向にある
- ✓ 増加傾向の要因は外国人の増加である
- ✓ 市内の日本人若年層は、令和2年度に一度下げ止まり、以降は引き続き減少傾向
- ✓ 外国人は10年前と比べ3倍近くに増加。日本人は約2,000人の減少となった。

### Point

- ✓ 年齢別にみても、殆どの層において社会増となっている
- ✓ 特に若年層が（20～39歳）の社会増がボリュームゾーンである
- ✓ 一方で、0～4歳については社会減の傾向が強い

単位：人



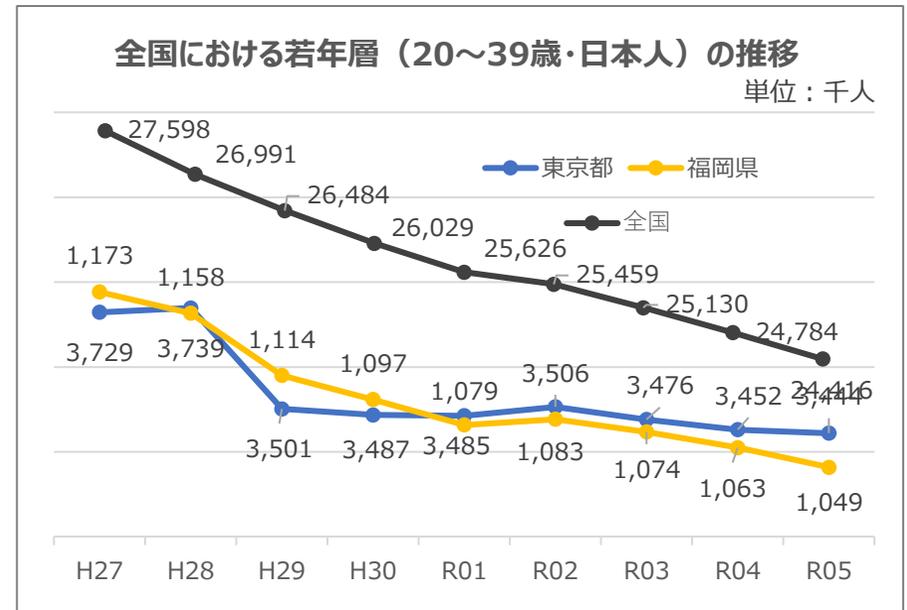


## Point

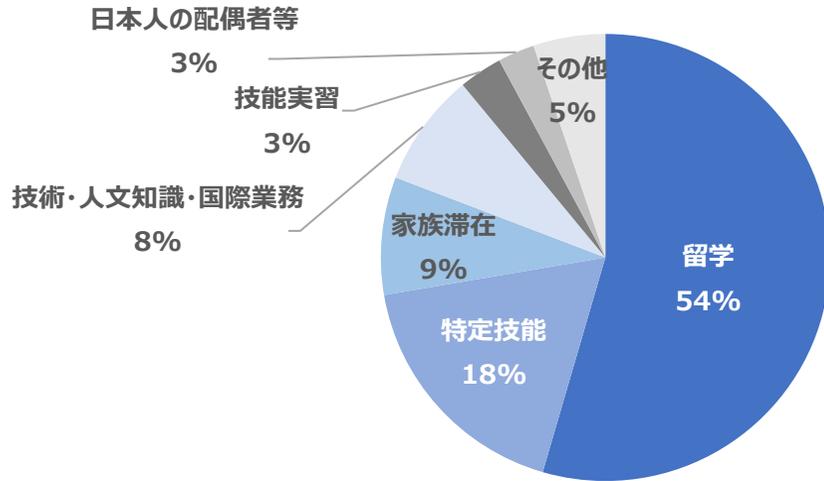
- ✓ 直近3年で見ると、本市の社会増のうち、大部分は外国人の社会増によるもの
- ✓ 40歳以上は日本人についても増加傾向  
働く場の多さが関係している可能性
- ✓ 社会増については、そのすべてを外国人に依存してゐるわけではない

## Point

- ✓ 日本人の若年層について、全国と比較してみると、鳥栖市と同様に減少傾向で推移している
- ✓ 人口が増加している東京都や、近隣の福岡県でも同様の傾向が見られ、グラフの形状（下がり幅）も鳥栖市と類似している
- ✓ 日本人の若年層減少は、時代の趨勢としての側面も一定程度はあると考えられる



## 在留資格の内訳（国外転入）

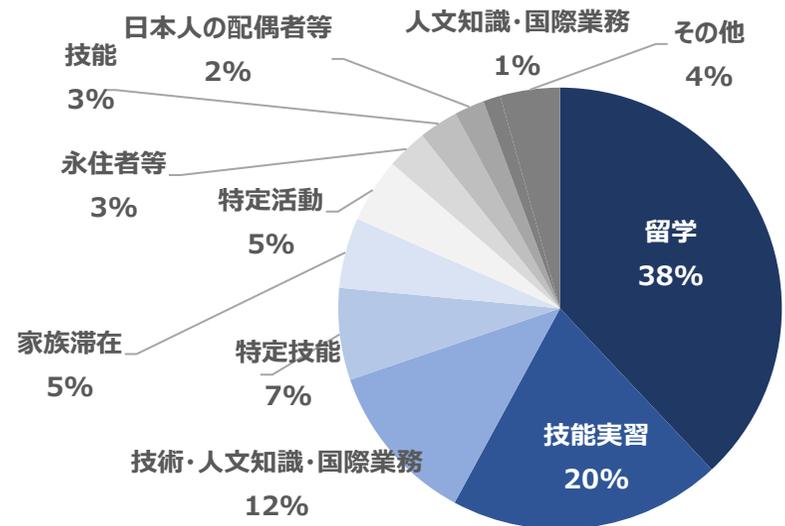


## Point

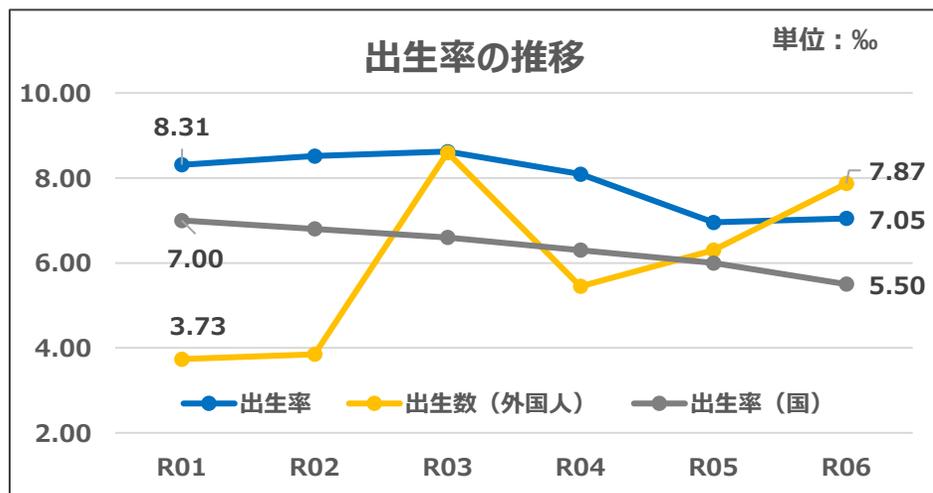
- ✓ 鳥栖市内の外国人のうち、国外転入者の在留資格を見ると、留学が54%とその大半を占める
- ✓ 次点は特定技能であり、製造業や建設業に従事する、高い技能を持った外国人の転入も多い
- ✓ 鳥栖市における外国人の増加には、日本語学校の立地だけでなく、働く場所の多さが影響していることがわかる

## Point

- ✓ 鳥栖市からの外国人転出者における在留資格について見ると留学が38%と最も多く、留学生の多くが転出していることがわかる
- ✓ 特定技能については7%と少なく、転入後に市内へ定住していると思われる
- ✓ 本市における外国人の増加は、留学よりも就業による定住者の増加に起因すると考えられる



## 在留資格の内訳（転出）



## Point

- ✓ 鳥栖市全体の出生数及び出生率はともに減少傾向。一方で、外国人のみの出生数、出生率は増加傾向にある
- ✓ 出生率をみると、鳥栖市は全体で約7‰、市内外国人のみで約8‰となっている。数値としては両者に大きな差はない
- ✓ 鳥栖市の出生率は全国より僅かに高い
- ✓ 婚姻件数については、近年は横ばいで推移している。一般的に出生数低下の主要因とされる未婚化については、鳥栖市では傾向がみられない
- ✓ 鳥栖市においては、婚姻件数の増減が出生数に与える影響は僅かである可能性がある

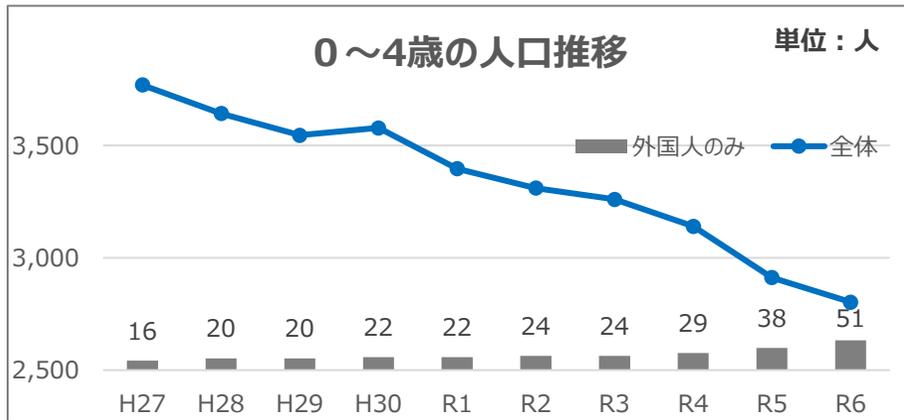
### 出生数の推移

年度	R01	R02	R03	R04	R05	R06
出生数(人)	614	630	638	603	518	525
うち外国人	5	5	10	9	12	17

### 婚姻件数の推移

年度	R01	R02	R03	R04	R05	R06
婚姻数(件)	566	733	722	771	675	747

# 【参考】自然動態における考察



## Point

- ✓ 0～4歳の人口推移を見ると、令和元年度より継続して減少傾向
- ✓ 外国人の出生数・出生率の増加は、若年層のそれと比較して鳥栖市の社会構造に与える影響は軽微

## Point

- ✓ 若年層及び0～4歳の人口推移を比較すると減少率に差があり、直近3年では若年層に対し0～4歳の減少率は4倍以上の差がある
- ✓ 出生率の低下は若年層の減少だけではない低下要因（出生意欲の低下等）が介在している
- ✓ 例えば、第2子出産時に子育て世帯が転出している等の可能性が考えられる

